

株主メモ

■決算期 …… 3月31日

■定時株主総会

開催期 …… 6月下旬

■基準日 …… 定時株主総会議決権行使株主確定日
3月31日

期末配当金支払株主確定日
3月31日

中間配当金支払株主確定日
9月30日

その他の基準日

上記のほか必要ある場合は、取締役会
の決議によりあらかじめ公告して設定

■公告方法 …… 電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由に
よって電子公告をすることができない場
合は日本経済新聞に掲載して行います。

※電子公告掲載ウェブサイト
<http://www.mhi.co.jp>

■単元株式数 …… 1,000株

■株主名簿管理人 …… 三菱UFJ信託銀行株式会社

■名義書換取扱場所 …… 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先及び電話照会先)
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
☎ 0120-232-711 (通話料無料)

■名義書換取次所 …… 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

株式についての各種手続き

名義書換、住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求・買増請求(単元未満株式買取請求・買増請求制度について以下で御案内しておりますので御参照ください。)及び相続の各種お手続きは、上記名義書換取扱場所及び名義書換取次所において取り扱っております。

なお、各種お手続きに必要な用紙については、以下の電話番号からも御請求いただけます。

専用ダイヤル **0120-244-479** (24時間・音声自動応答・通話料無料)

～単元未満株式(1株～999株)買取請求・買増請求制度の御案内～

●単元未満株式買取請求制度

御所有の単元未満株式を処分したい場合、当社に対して、単元未満株式の買い取りを御請求いただくことができます。

お手続き用紙(「単元未満株式買取請求書」)を作成の上、株券*及び必要書類を添えて、上記名義書換取扱場所又は名義書換取次所あてに御提出ください。

●単元未満株式買増請求制度

御所有の単元未満株式を1単元株式(1,000株)にしたい場合、当社に対して不足する数の株式の買い増しを御請求いただくことができます。

お手続き用紙(「単元未満株式買増請求書」)を作成の上、株券*、買増概算金及び必要書類を添えて、上記名義書換取扱場所又は名義書換取次所あてに御提出ください。

なお、9月30日及び3月31日から起算してそれぞれ12営業日前から当該日までの間はお取扱いができませんので御留意ください。

*登録株式の場合は、株券の提出は不要です。

(御注意)

①お手続きの詳細の御照会は、下記株主名簿管理人あてにお願いいたします。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (通話料無料)

②証券会社等を通じて証券保管振替機構に株券を預託している方は、当該証券会社を通じてお手続きください。

概況

株主の皆様には、平素より格別の御支援、御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
「平成19年度中間報告書」をお手もとにお届けするに当たりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

1. 経済情勢

当上半期における我が国経済は、輸出が堅調であったほか、良好な企業業績を反映した民間設備投資が下支えとなり、底堅い成長が持続しました。また、世界経済も米国、欧州、東アジアをはじめ全体として緩やかな景気拡大が持続しました。

2. 連結業績の概要

(1) 受注

このような状況の下、当社グループは、拡大が続く海外市場を中心に、収益性を重視した受注活動を強力に展開いたしました。この結果、当上半期における連結受注高は、海外で大型案件を相次いで受注した原動機部門や機械・鉄構部門が前年同期から大きく増加いたしました。また、船舶・海洋部門、中量産品部門及び航空・宇宙部門も増加したため、全体では1兆7,696億円となり、前年同期を約30%上回りました。

【連結受注高】

部門	平成19年度 上半期	平成18年度 上半期
船舶・海洋	2,123億円	1,592億円
原動機	5,763億円	3,910億円
機械・鉄構	3,300億円	1,823億円
航空・宇宙	1,759億円	1,722億円
中量産品	4,467億円	4,156億円
その他	610億円	596億円
部門間取引の消去	△ 329億円	△ 216億円
合計	17,696億円	13,584億円

(2) 売上

連結売上高も、近年の好調な受注状況を反映し、国内外で工事が増加している原動機部門をはじめ、中量産品部門、航空・宇宙部門及び船舶・海洋部門が増加しており、機械・鉄構部門は減少したものの、前年同期を約7%上回る1兆4,464億円となりました。

【連結売上高】

部門	平成19年度 上半期	平成18年度 上半期
船舶・海洋	1,381億円	1,371億円
原動機	4,497億円	3,894億円
機械・鉄構	1,780億円	2,066億円
航空・宇宙	1,970億円	1,733億円
中量産品	4,450億円	4,180億円
その他	633億円	589億円
部門間取引の消去	△ 249億円	△ 311億円
合計	14,464億円	13,524億円

(3) 利益

利益面では、営業利益は558億円、経常利益は410億円となり、前年同期からそれぞれ115億円、75億円改善しました。これは、「2006事業計画」(中期経営計画)の諸施策の推進による売上高の増加及び収益力の向上に加え、為替レートが円安で推移したこともあり、資材費の上昇、研究開発費の増加、制度見直しによる減価償却費の増加等の減益要因が吸収できたためです。

また、事業改善・再構築に係る特別対策費を特別損失に計上し、固定資産売却益を特別利益に計上いたしました。

この結果、中間純利益は279億円となり、前年同期から60億円改善しました。

【連結営業利益・経常利益・中間純利益】

	平成19年度 上半期	平成18年度 上半期
営業利益	558億円	443億円
経常利益	410億円	334億円
中間純利益	279億円	219億円

3. 単独業績の概要及び中間配当金

当上半期の単独業績は、受注高は1兆2,804億円、売上高は1兆1,402億円、営業利益は391億円、経常利益は247億円、中間純利益は244億円となりました。当年度の中間配当金につきましては、当上半期の決算実績及び年間の業績見通しを考慮し、平成19年10月31日開催の当社取締役会の決議により、1株につき3円の配当とし、平成19年12月5日からお支払いを開始することとさせていただきます。

【単独業績・中間配当金】

	平成19年度 上半期	平成18年度 上半期
受注高	12,804億円	10,394億円
売上高	11,402億円	10,603億円
営業利益	391億円	282億円
経常利益	247億円	200億円
中間純利益	244億円	156億円
中間配当金	3円	3円

4. 当社グループが対処すべき課題

(1) 今後の経済情勢

今後の世界経済は、中国をはじめとする東アジア、欧州等が牽引役となり拡大基調を維持し、我が国経済も、輸出を中心に堅調な企業業績に支えられ、底堅く推移するものと思われます。一方、米国のサブプライム住宅ローン問題に端を発する米国経済の減速拡大が世界経済に影響を与える懸念もあることから、景気の先行きはやや不透明な状況にあります。

(2) 「2006事業計画」への取組み

こうした環境の中で、当社グループは、将来にわたって飛躍・発展していくために、昨年度から「2006事業計画」(中期経営計画)を強力に推進しております。同計画では、伸長事業の強化、成熟事業への施策に加え、製造業として経営の根幹ともいえる製品信頼性の確立に向けた、ものづくり基盤の一層の強化に取り組んでおります。当上半期においてもその成果は着実に表れ、確固たる収益体質が構築されつつあります。この成果を糧に、当社グループは、今後も拡大を続ける海外市場を見据えたグローバルな

事業展開を重要な戦略と位置づけ、持続的な発展を目指してまいります。

(伸長事業の強化)

伸長事業の原動機部門では、エネルギー・環境問題への関心が高まる中、世界的に需要が拡大している高効率型ガスタービンや風車、太陽電池などの環境対応型製品の事業強化に注力してまいります。具体的には、国内外での生産能力増強のための設備投資をはじめ、グローバルな事業展開に向けて、海外企業との業務提携を積極的に実施してまいります。

また、原子力事業では、米国市場をはじめ海外市場での受注活動の推進や、アレバ社(仏国)との協業による110万kW級新型発電プラントの共同開発に全力を挙げております。

このほか、世界的に需要が拡大しているB787等の民間輸送機やターボチャージャ(過給機)などについても、一層の事業拡大に向けて国内外の生産能力を増強しております。

(成熟事業への施策)

成熟事業についても、製品競争力を高めるための施策として、船舶・海洋部門をはじめとして設備の新鋭化等による生産効率の向上を進めております。機械・鉄構部門では、中小製品事業のグループ会社への事業移管、他社への事業譲渡等の施策により事業の選択と集中を加速しております。

(ものづくり基盤の強化)

当社グループ経営の根幹である製品信頼性の確立に向けたものづくり基盤強化のため、生産設備や生産技術力の強化、標準化・共通化といったものづくり手法の全社展開等にも、引き続き取り組んでまいります。

(3) 多様な事業リスクへの対応

当社グループは、今後もグローバルな事業展開を強力に推進してまいります。為替変動、原材料価格の高騰等のリスクに対して的確な対応策を講ずるとともに、受注案件毎に固有のリスク項目を洗い出し、そのチェックを徹底してまいります。また、海外事業の大幅な拡大に対応するため、現地工事の管理・運営体制を更に強化するとともに、海外生産拠点の設備増強等を進めてまいります。一方、事業の拡大に伴い、将来的に不足が懸念される人材の確保についても、採用数を大幅に増やすほか、グループ内の人材を伸長事業に重点再配置するなど、着実な体制強化を図ってまいります。

(4) CSRの推進

当社グループは、以上の諸施策を着実に推進するとともに、今後もCSR(企業の社会的責任)を基軸に経営を進めていく所存です。このCSRの根幹をなすコンプライアンスについては、独占禁止法の遵守をはじめ、その徹底に傾注してまいります。また、今後一層拡充が求められる内部統制についても、グループ全体で万全の体制を構築すべく対応してまいります。

株主の皆様におかれましては、従来にも増して御理解、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

取締役会長

西岡 喬

取締役社長

佃 和夫

部門別の概況

船舶・海洋部門

世界的な海運市況の活況により、近年は新造船需要も高水準で推移していることを受け、十分な仕事量を確保しております。こうした中、大型設備投資等を積極的に進め、生産効率の改善に取り組みました。

当上半期は、コンテナ船7隻、自動車運搬船13隻等 合計21隻(100総トン未満の船舶を除く。以下隻数について同じ。)を受注し、連結受注高は、前年同期を上回る2,123億円、新造船契約残は73隻、約455万総トンとなりました。

連結売上高は、当上半期はコンテナ船3隻、自動車運搬船2隻等 合計9隻を引き渡し、前年同期を上回る1,381億円となりました。営業利益は26億円となり黒字を確保できました。

原動機部門

ガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラント、原子力発電プラント等の主力製品の強化・拡大を図るとともに、風車や太陽電池等の環境対応型製品の育成に取り組みました。

当上半期の受注は、海外では米国向け風車が大幅に伸長したほか、アジア等でガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラントを複数成約するなど好調に推移しました。また、国内でも、既納プラントの改良・改造・修理工事の

需要が回復傾向にあり、原子力装置、ガスタービン、ボイラが伸長しました。以上の結果、部門全体の連結受注高は5,763億円となり前年同期を上回りました。

連結売上高は、国内外ともに工事が増加し、前年同期を上回る4,497億円となりましたが、営業利益は、研究開発費が増加したことなどにより、247億円に留まりました。

機械・鉄構部門

化学プラント、新交通システムは、海外で大型案件の受注に向け継続的に取り組んでおります。また、需要が拡大傾向にあるコンプレッサ等で生産能力の増強を進めました。

当上半期の受注は、海外で大型案件を相次いで成約した化学プラント、製鉄機械のほか、世界的に需要の急増しているゴム・タイヤ機械が伸長しました。また、国内でも、料金機械を中心に好調に推移しました。以上の結果、部門全体の連結受注高は、前年同期を上回る3,300億円となりました。

連結売上高は、売上規模が大きかった前年同期を下回る1,780億円となり、営業利益は1億円となりました。

航空・宇宙部門

B787民間輸送機の複合材主翼を当上半期に初出荷するとともに、初の国産ジェット旅客機MRJ (Mitsubishi Regional Jet) の事業化の検討作業を本格化させました。また、製造から打上げまで当社が一貫して行う民営化の初号機となるH-IIAロケット13号機の打上げにも成功しました。

当上半期の受注は、防衛関係は、誘導飛行体を中心に減少しました。一方、民間機関係は、S-92民間ヘリコプタ(キャビン)、B787民間輸送機(主翼)等が伸長したため前年同期を上回りました。以上の結果、部門全体の連結受注高は1,759億円となり前年同期を上回りました。

連結売上高は、民間輸送機等の増加により、前年同期を上回る1,970億円となりました。営業利益は51億円となりました。

中量産品部門

汎用機・特殊車両関係は、経済成長の著しいインドで、現地メーカーと小型エンジンの製造・販売の合併会社設立に合意し、同国への本格参入のための布石を打ちました。

当上半期は、東南アジアを中心に発電用の中小型エンジンが伸長したほか、排気ガス規制の強化で需要の拡大している欧州を中心にターボ

チャージャ(過給機)も増加しました。また、フォークリフトも海外で好調を維持しました。以上の結果、連結受注高は2,179億円、連結売上高は2,268億円となり、それぞれ前年同期を上回りました。また、営業利益は87億円となりました。

冷熱関係は、旺盛な需要の続く欧州で販売網の強化に取り組むなど積極的な拡販に努めました。当上半期は、パッケージエアコン及びルームエアコンが欧州で好調であったほか、国内でもカーエアコンが伸長したため、連結受注高は1,146億円、連結売上高は1,127億円となり、それぞれ前年同期を上回りました。また、営業利益は44億円となりました。

産業機械関係は、最新型のオフセット枚葉機「DIAMOND300」のほか、工作機械でも各種新製品を積極的に投入するとともに、今後も需要の伸びが期待されるアジアを中心に拡販に努めました。

当上半期の受注は、国内では新聞用オフセット輪転機等が減少しましたが、海外でオフセット枚葉機がインド、中国等で伸長したほか、工作機械も中国向けが好調でした。以上の結果、連結受注高は1,142億円、連結売上高は1,054億円となり、それぞれ前年同期を上回りました。また、営業利益は48億円となりました。

トピックス

当社は、CSR行動指針の一つに「次世代への架け橋」を掲げており、これからも社会貢献活動の一環として、未来を担う子どもたちへ「ものづくり」のすばらしさを伝える活動に取り組んでまいります。

出前理科授業 “wakamaru”先生プロジェクト<静岡市立東源台小・安倍口小>

静岡市教育委員会の特別講師派遣依頼に応え、ロボットの仕組みを知ることで科学技術やものづくりへの興味を喚起しようと、当社コミュニケーションロボット “wakamaru” と開発技術者による出前理科授業を行いました。子どもたちは “wakamaru” の一挙手一投足に「かわいい」「すごい」と歓声を上げ、楽しく学ぶ機会となったようです。今後は、NPOと協力して中学生が仕事について学ぶ「出前授業」も実施していく予定です。



三菱みなとみらい技術館への御招待

明日を担う青少年たちが科学技術に触れ、夢を膨らます場となることを願い開設された三菱みなとみらい技術館は、平成6年の開館以来、計120万人以上のお客様をお迎えしています。宇宙、海洋、環境、エネルギー等をテーマとした様々なゾーンで、参加体験型の展示をお楽しみください。

◆皆様の御来館をお待ちしております。

所在地：横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号
三菱重工横浜ビル内

アクセス：JR根岸線/横浜市営地下鉄「桜木町駅」より徒歩8分

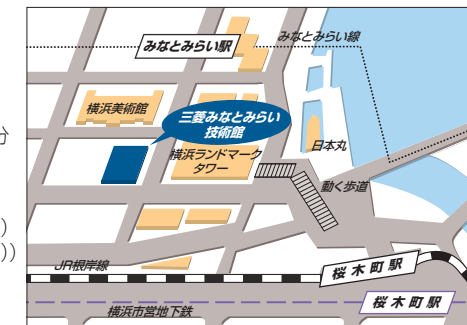
みなとみらい線「みなとみらい駅」けやき通り口より徒歩3分

開館時間：午前10時～午後5時30分(入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日(但し、月曜日が祝日の場合は翌日)
年末年始及び特定休館日(2月18日(月)～2月22日(金)及び3月4日(火))

お問い合わせ先：電話番号 045-224-9031

ホームページ：http://www.mhi.co.jp/museum/



wakamaruも
お待ちしております

見

三菱みなとみらい技術館 御招待券
有効期限：平成20年3月30日
本券を副券とさせていただきます。
(同伴者3名様まで有効)



H-IIA 13号機の打上げ成功

平成19年9月14日10時31分（日本標準時）、当社及び宇宙航空研究開発機構は、種子島宇宙センターから月周回衛星「かぐや」（SELENE）を搭載したH-IIAロケット13号機を打ち上げました。13号機は正常に飛行し、打上げの約45分34秒後に「かぐや」を予定どおり分離しました。当社は、今回の打上げから、H-IIAロケットによる衛星の打上げ輸送サービスビジネスを国内外の顧客に対して行っております。

連結中間決算の概要

中間連結貸借対照表の要旨

（単位：億円）

資産の部	平成19年度 中間期末	平成18年度末	負債及び純資産の部	平成19年度 中間期末	平成18年度末
	(平成19年9月30日現在)	(平成19年3月31日現在)		(平成19年9月30日現在)	(平成19年3月31日現在)
流動資産	28,159	27,873	流動負債	17,640	18,074
現金預金	2,542	2,442	買入債務	6,824	7,465
売上債権	10,311	11,667	短期借入金	2,480	3,542
たな卸資産	11,813	10,485	前受金	5,067	3,949
繰延税金資産	891	877	その他流動負債	3,267	3,116
その他流動資産	2,599	2,400	固定負債	12,408	11,380
固定資産	16,848	16,045	社債	2,866	1,966
有形固定資産	8,484	8,247	長期借入金	6,549	6,700
無形固定資産	309	334	繰延税金負債	1,479	1,206
投資その他の資産	8,054	7,463	その他固定負債	1,513	1,507
投資有価証券	7,189	6,749	負債合計	30,049	29,454
繰延税金資産	182	63	株主資本	12,281	12,089
その他	683	651	資本金	2,656	2,656
資産合計	45,008	43,918	資本剰余金	2,038	2,038
			利益剰余金	7,637	7,445
			自己株式	△50	△50
			評価・換算差額等	2,479	2,190
			其他有価証券評価差額金	2,315	2,121
			繰延ヘッジ損益	52	6
			為替換算調整勘定	110	62
			新株予約権	5	2
			少数株主持分	192	181
			純資産合計	14,958	14,464
			負債及び純資産合計	45,008	43,918

（注）有形固定資産の減価償却累計額
 (平成19年度中間期末) 15,664億円
 (平成18年度末) 15,422億円

中間連結損益計算書の要旨

（単位：億円）

	平成19年度中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	平成18年度中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
売上高	14,464	13,524
営業費用	13,905	13,081
営業利益	558	443
営業外収益	134	105
営業外費用	283	214
経常利益	410	334
特別利益	104	47
特別損失	29	17
税金等調整前中間純利益	485	364
法人税等	199	137
少数株主利益	5	7
中間純利益	279	219

（注）1株当たり中間純利益
 (平成19年度中間期) 8円34銭
 (平成18年度中間期) 6円53銭

中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

（単位：億円）

	平成19年度中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	平成18年度中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,053	1,086
投資活動によるキャッシュ・フロー	△882	△647
財務活動によるキャッシュ・フロー	△74	55
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	△2
現金及び現金同等物の増減額	122	492
現金及び現金同等物の期首残高	2,275	1,762
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	6	4
現金及び現金同等物の期末残高	2,404	2,260

工場見学会のお知らせ

第7回工場見学会を下記のとおり広島県三原地区で開催いたします。多くの皆様の御応募をお待ちしております。

見学会概要

- ・見学場所 プラント・交通システム事業センター
(広島県三原市) 紙・印刷機械事業部
シンガポール、フィリピン、ドバイ等世界の都市で人や環境にやさしい街づくりに貢献している「交通システム」、国内外の主要新聞社や印刷会社等から高い評価を受けている「印刷機械」などを製作しています。
- ・実施日時 平成20年3月14日(金) 13:30~17:30
- ・対象者 当社株主の方(同伴者1名様まで可)
- ・集合・解散 JR三原駅
- ・参加費 無料(ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自の御負担とさせていただきます。)



応募要領

- ・応募方法 右記のとおり郵便はがきに必要な事項を御記入の上、御応募ください。
- ・締切日 平成19年12月31日(月)(当日消印有効)
- ・募集人数 80名様(同伴者を含む)

※お申し込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。
厳正な抽選の上、当選発表につきましては当選者への御連絡(1月下旬発送予定)をもって代えさせていただきます。
 その際、当日の運営等詳細を合わせて御連絡いたします。
 ※御応募により当社が取得する個人情報、本工場見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。
 ※御見学時は、バスの乗り降りや階段の昇り降りがあり、1時間程工場内をお歩きいただくこととなりますので御了承ください。
 なお、御高齢の方及び小学生以下の方の御参加の際には、同伴者をお願いする場合があります。

お問い合わせ先

三菱重工業株式会社 総務部 文書課
 電話番号：03-6716-3111(大代表)
 8:45~17:30(土・日、祝祭日、当社休日を除く)

郵便はがき 50円切手 108215 三菱重工業(株) 総務部文書課 工場見学会係行	東京都港区港南 一丁目16番5号
あて名面	裏面

会社の概要

概要

社名 三菱重工業株式会社
 本社 東京都港区港南二丁目16番5号
 〒108-8215 ☎03-6716-3111
 創立 明治17年7月7日
 設立 昭和25年1月11日

資本金 265,608百万円
 (平成19年9月30日現在)
 従業員数 33,369名 連結：64,072名
 (平成19年9月30日現在)
 ホームページ <http://www.mhi.co.jp>

役員

(平成19年9月30日現在)

- | | | | |
|-------------|--------|-------|--------|
| *取締役会長 | 西岡 喬 | 常勤監査役 | 稲熊 豊彦 |
| *取締役社長 | 佃 和夫 | 常勤監査役 | 中本 興伸 |
| *取締役副社長執行役員 | 江川 豪雄 | 監査役 | 岸 暁 |
| *取締役副社長執行役員 | 大宮 英明 | 監査役 | 中野 豊士 |
| *取締役常務執行役員 | 浦谷 良美 | 執行役員 | 野村 吉三郎 |
| *取締役常務執行役員 | 高岡 力 | 執行役員 | 松岡 利行 |
| *取締役常務執行役員 | 福江 一郎 | 執行役員 | 山田 陽二 |
| *取締役常務執行役員 | 戸田 信雄 | 執行役員 | 安田 勝彦 |
| *取締役常務執行役員 | 菅 宏 | 執行役員 | 井上 裕 |
| *取締役常務執行役員 | 青木 素直 | 執行役員 | 澤 明 |
| *取締役常務執行役員 | 吉田 雄彦 | 執行役員 | 川井 昭陽 |
| *取締役常務執行役員 | 飯島 史郎 | 執行役員 | 宮 永俊一 |
| 取締役執行役員 | 和木 敏史 | 執行役員 | 新谷 誠 |
| 取締役執行役員 | 渡部 健 | 執行役員 | 原 寿 |
| 取締役執行役員 | 佐々木 幹夫 | 執行役員 | 西沢 隆人 |
| 取締役執行役員 | 和田 明広 | 執行役員 | 佃 嘉章 |
| 取締役執行役員 | 坂本 吉弘 | 執行役員 | 伏屋 紀昭 |
| | | 執行役員 | 斉藤 卓美 |
| | | 執行役員 | 和仁 正文 |
| | | 執行役員 | 東間 清信 |
| | | 執行役員 | 河本 雄二郎 |
| | | 執行役員 | 二ノ宮 秀明 |
| | | 執行役員 | 前川 篤 |

(*印は代表取締役)

株式の状況

(平成19年9月30日現在)

発行可能株式総数 6,000,000,000株
 発行済株式総数 3,373,647,813株
 株主数 318,085名

